

岐阜県立東濃実業高等学校における総合的な探究の時間の意義 —課題研究における商品開発と学習成果発表会を事例として—

工藤 昌義

要 約

本稿では、岐阜県立東濃実業高等学校において総合的な探究の時間に取り組まれている課題研究の概要と、その意義について考察した。卒業後の進路として就職を選択する生徒が多い同校においては、「個人的な生き方」や「社会の一員としての生き方」の具現化を目標とする総合的な探究の時間は切実な意味を有している。同校のビジネス管理科企業創造類型における教育実践と学習成果発表会の概要を紹介し、上述した総合的な探究の時間の趣旨がいかなるかたちで実現しているかについて報告した。

キーワード

岐阜県立東濃実業高等学校 総合的な探究の時間 課題研究

はじめに

2018（平成30）年に改訂された『高等学校学習指導要領』の解説編では、総合的な探究の時間（以下、総合探究）について「生徒の発達の段階を踏まえて、自然や社会とのつながりのなかで人間としての在り方を真摯に希求することをその基底に据えている。そして、そのような理想的、理念的な在り方が、職業選択や進路実現に関わる模索や横断的・総合的な課題を解決しようとする取組を通して個人的な生き方として、あるいは社会の一員としての生き方として具現化されていくことを目指している。」と説明されている¹⁾。

高校生は、一般に、近い将来、上に見たような「社会の一員」として就労することが期待されている。とりわけ、いわゆる「実業高等学校」においては、卒業後の進路と

して就職を迫られる生徒も多い。筆者が所属する岐阜県立東濃実業高等学校（以下、東濃実業高校）もまた例外ではない。この点において、上述した総合探究が、いわゆる実業科に所属する生徒にとって果たす役割は、普通科に在籍する生徒たちに対するそれよりも一層切実である。

本稿では、東濃実業高校において「課題研究」という名称で取り組まれている総合探究の実践例を示すとともに、そこでの探求的な学びが、生徒たちに将来の職業選択や人間としての在り方を見つめ直させるうえで果たしている意義について論じる。

1. 東濃実業高校の概要と課題研究の位置づけ

1921年に設立され、100年の歴史を有する東濃実業高校は、教育目標として「地域

の未来を創出する人材の育成」を掲げ、他者とのかかわりを通して自己を見つめ、豊かな人間性を備えるとともに、確かな教養に裏付けされた専門的知識・技術を有し、地域の未来を見据えて主体的に学び続ける人材の育成を目指している²⁾。

また、上述した教育目標の実現のため、①望ましい勤労観・職業観、自己の在り方・生き方・価値観を見いだす「勤労」、②社会の一員としての自覚を深め、自らの行動に責任をもつ「責任」、③今までの慣習にとらわれず、意欲的に挑む姿勢やチャレンジ精神を育成する「進取」、④基礎的・基本的な知識・技能、および思考力・判断

力・表現力を身につけ、主体的に課題解決する力をつける「創意」の四つの校訓と、「さわやかなあいさつを！」「授業に打ち込もう！めざそう資格取得！」「部活動に積極的参加！」「端正な身だしなみを！」「環境美化に努めよう！」の五つの実践目標を打ち出している³⁾。

設置課程やホームルーム編制、教員数については、表1～3に示した通りである。現在の入学生に対してはビジネス科・ビジネス情報科・生活デザイン科の三つの学科が設けられている。

ビジネス科（2021（令和3）年度よりビジネス管理科から学科名を変更）では、起

表1：設置課程・学科・入学定員

課 程	学 科		入学定員
全日制	商 業	ビ ジ ネ ス 科	70
		ビジネス情報科	70
	生活産業	生活デザイン科	80
	合 計		220

表2：ホームルーム編制

学年\学科	ビジネス科		ビジネス情報科		生活デザイン科	
1 学年・組	1	2	3	4	5	6
2 学年・組	1	2	3	4	5	6
学年\学科	ビジネス管理科		ビジネス情報科		生活文化科	
3 学年・組	1	2	3	4	5	6

表3：教員

	校長	教頭	教諭	常勤講師	養護教諭	実習助手	非常勤講師	ALT	合計
男性		2	29	3			4	1	39
女性	1		15	2	1	4	4		27
合計	1	2	44	5	1	4	8	1	66

業創造類型・簿記会計類型・事務管理類型の3類型のうち、いずれかを選択することになっている(2023(令和5)年度の2年次より、3類型選択から2コース選択へと改定される予定)。また、ビジネス情報科は、プログラミング類型・マルチメディア類型・システム開発類型の3類型から選択できる(2023年度2年次より、3類型選択から2コース選択へと改定される予定)。さらに、生活デザイン科では、1年次に共通科目のフードデザイン、ファッション造形、保育基礎などを学び、2年次から各自の適性や進路希望に合わせて生活を形づくる基礎的な内容として衣食住・保育・福祉といった選択科目によって専門性を高めていく。

いずれの学科類型においても、3年次になると先述した課題研究に取り組むことになっており、各自の専門性に根ざした課題を発見し、その解決に向けた自発的・創造的な学習を進める。そして、年度末には1年間の課題研究の取組と成果を全校生徒に対して発表する学習成果発表会を開催し、次年度以降の課題研究へと引き継いでいく仕組みとなっている。以下では、ビジネス管理科の起業創造類型における課題研究と学習成果発表の内容を紹介し、東濃実業高校における総合探究の在り方と意義について考察することにした。

2. 課題研究の概要

(1) ビジネス管理科企業創造類型における課題研究の概要

課題研究の前提条件となる指導と評価の年間計画は次頁の表4に示した通りである。

ビジネス管理科企業創造類型における課題研究では実社会で活躍する企業人とともに商品開発に取り組ませている。このことにより、商品開発に関する知識・技術、顧客の満足を実現することの重要性に関する理解、社会人としての責任感の涵養を図るとともに、地域社会の活性化に貢献することを目的としている。連携する企業と内容については表5の通りである。

2022(令和4)年度の課題研究では、株式会社鶴舞屋との共同によるサヨリ飯の商品開発と販売活動に取り組んだ。サヨリ飯は、1939年(昭和14年)に「日本五大銘飯」に認定された岐阜県御嵩町の郷土料理である⁴⁾。秋に収穫された新米と当時貴重だったサンマを、収穫に対する感謝を込めて一緒に炊き上げたものである。海に面していない岐阜県の中濃地域や東濃地域では、かつて魚の種類はあまり知られておらず、サンマを含む細長い魚をサヨリと総称したことから「サヨリ飯」と名づけられたようである。

商品開発に着手する前に、生徒たちは郷土料理に詳しい外部講師の講演を聴いて上述した歴史や由来について学んだ。その後、どのような販売方法が良いかをチームで話し合い、販売活動を行った。

担当教員は外部講師の手配や、企業側の担当者との事前の打合せなどには関わったものの、組織づくりからスケジュールの管理、企業側担当者との打合せ、パッケージ・デザイン、アレンジ・レシピの考案、販売活動など、ほとんど全ての学習活動を生徒たちが主体となって推進した。販売活動は、可児市の道の駅「可児ッテ」において「東濃実業の秋 なんかちゃって SP 販売会 in 可

表 4：課題研究の指導と評価の年間計画

岐阜県立東濃実業高等学校					
指導と評価の年間計画					
科目名	課題研究	単位数	4 単位	学年・科名(類型)	第 3 学年 ビジネス管理科・ビジネス情報科
指導目標 【学習指導要領】	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。				
到達目標に向けての具体的な取り組み 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	①調査、研究、実験 ②作品制作 ③産業現場等における実習 ④資格取得 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて上記内容の中から選択させる。また、自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなど課題の解決を図る学習を通して得た成果を、発表し討論する機会を年度末に設ける。				
月	単元名	使用教科書	時間	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
4 5 6			37	・日程などを考慮して無理のない計画を立てる ・自ら設定した課題について取り組む	行動観察 課題研究日誌 自己評価 ノート
7 9			32	・自ら設定した課題について取り組む	行動観察 課題研究日誌 自己評価 ノート
10 11 12			48	・自ら設定した課題について取り組む 【後期中間報告】	行動観察 課題研究日誌 自己評価 ノート
1 2			23	【発表会】 ・発表後のまとめと反省についてレポート作成	外部評価 レポート
<注記> 『到達目標に向けての具体的な取り組み』欄、①③については積極的に地域にでかけ、課題を見つけ、解決するために創意・工夫を行う。②については、ビジネスの諸活動の中で要求されるテーマを設定し取り組む。④については「流通ビジネス」「国際経済」「簿記会計」「経営情報」の各分野に関する資格取得を目指すものとする。					
合計時間数			140		

見ッテ」と銘打って行った（図 1）。参加した生徒からは「お買い上げいただいたお客様の笑顔も見ることができ、とても充実した販売実習となりました」といった感想も聞かれた。

また、いわゆる「コロナ禍」のなかで販

売活動自体が困難な状況だったため、新たな試みとして、鵜舞屋と十六銀行の協力を得てクラウド・ファンディングにも取り組んでいる。鵜舞屋代表取締役の高森幹啓氏から一つの新商品を開発するためには最低でも 10 万円は必要との助言を受け、生徒

表 5：課題研究における連携企業と内容

	連携企業	内容
1	(株) 鶴舞屋	商品開発
2	道の駅 可児ッテ	商品開発
3	笑顔の花びら集めたい	筋痛性脊髄炎の認知啓発啓蒙活動
4	リバーポートパーク美濃加茂	イベント企画
5	カフェ&ピザ デルタ	メニュー開発
6	馬力屋	メニュー開発
7	パティースリーランド	商品開発
8	ベーカリーたつや	商品開発
9	こぶしの里 牧野店	商品開発
10	(株) 日の丸製菓	商品開発



図 1：道の駅「可児ッテ」における販売活動

たちは必要十分な資金の調達を目標とした。

やや具体的に述べると、生徒のメッセージカード付のサヨリ飯の缶詰 2 個を「サヨリ缶セット」として 3,000 円で、また、メッセージカード、缶詰 8 個、東濃実業高校のオリジナル・クリア・ファイル 2 枚を「サヨリ飯スペシャルセット」として 10,000 円で、といったように、複数の返礼品のセットを設定した。そして、最終的に 537,500 円の資金調達に成功した。

以上に見たように、商品開発における企業人との協働や販売活動における地域住民

との交流に主体的に取り組むことや、仲間と協力して様々な問題を解決することを通じて、生徒たちは、教室内では経験することが困難な社会とのつながりのなかで人間としての在り方を追究する機会を得ることができると考えられる。すなわち、本稿の冒頭で確認した総合探究の理念を具現化したものといえよう。

(2) 学習成果発表会

学習成果発表会は例年、可児市文化創造センターで開催されてきたが、2020(令和 2)年度からは感染症への対策として校内各教室における映像による発表が続いている。課題研究に取り組んだ各グループが撮影した動画の編集をケーブルテレビ可児(CTK)に依頼し、各教室で放送を視聴するのである。全校生徒に向けて 1 年間の学習成果を発表することは、次年度以降に課題研究に取り組む下級生に対する引継としての性格も有している。なお、保護者や関係者に向

けて YouTube 上で限定配信も行った。

以下、事後のアンケートに寄せられた生徒たちの感想の一部を抜粋しておこう。

- ・みんなで協力して企画を立てて考えて作っていてすごいなと思った。テーマがそれぞれ違って飽きずに見ることができた。
- ・自分たちで研究したことを分かりやすく編集でまとめているすごいと思った。
- ・各類型素晴らしい発表だったと思う。自分たちも来年、先輩方のようにスムーズに発表できるといいと思った。
- ・集大成を発表するという事もあり、誰もが真剣に、そして誰もが楽しんでいたと感じた。締めくくりができて良かった。

おわりに

これまで本稿全体を通じて報告してきたように、東濃実業高校ビジネス管理科企業創造類型における3年次の課題研究の実践においては、企業との連携と協働において、生徒たちが商品開発から販売活動までの全ての過程に取り組んでいる。

これら一連の過程において、生徒たちは、当然ながら、2年次までの商業に関する学習の成果を基盤として、自ら課題を設定し、思考し、判断しなければならない。また、学習成果発表会に向けて準備し、練習することによって、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力—特に、話す力を向上させることが期待されている。

さらに、企業人との交渉や地域住民との交流のなかで、卒業後の進路を見据えながら、他者と協働し、地域に貢献しようとする真摯な生き方とはいかなるものかを見つめ直すことになるのである。

以上の諸点は、とりもなおさず、『高等学校学習指導要領』が総合探究の時間において求めている、社会とのつながりのなかで人間としての在り方を真摯に希求することを基底に据えた探求的な学びそのものである。

そして、こうした豊かな学びの機会を保障することは、卒業後の進路として就職を選択することの多い「実業高等学校」の生徒にとって、近い将来の自らの姿を想像し、前向きに生きていく動機を形成するうえで大きな意義を有しているのである。

〔註〕

- 1) 文部科学省編『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』文部科学省、2018年7月、74頁。
- 2) 「岐阜県立東濃実業高等学校 全日制課程 スクール・ポリシー」(<https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/tojitsu-chs/guide/school-policy/>、2022年12月14日最終閲覧)
- 3) 「学校概要」(<https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/tojitsu-chs/guide/gaiyou/>、2022年12月14日最終閲覧)
- 4) 「ローカルクラウドファンディング OCOS 東濃実業高校×明治10年創業の老舗食品メーカー 岐阜の伝統食を広めたい！高校生による日本五大飯「サヨリ飯」の復活」(<https://www.oco-s.jp/project/sayorimeshi>、2022年12月22日最終閲覧)